



## 平成27年11月14日(土)開催

全4回シリーズ 鴻巣御殿御参行列開催記念

### 鴻巣ゆかりの歴史人

# 『8傑1姫』

## 紀行

= 最終回 =

～真田小松姫・真田信重の巻～

中山道が歩行者天国となり、これまで紹介してきた歴史人が9名(徳川家康、笠原直使主、源経基、渡辺綱、伊奈忠次、牧野康成、石田三成、真田小松姫、真田信重)登場し、歴史絵巻に包まれます。

イベントの詳細は、広報かがやきと同時配布のチラシや市ホームページをご覧ください。



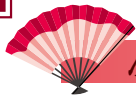
### 歴史人⑧

## 真田小松姫

「六文銭」の家紋で有名な戦国武将の真田家と鴻巣には深いご縁があります。安土桃山時代の末期に、真田昌幸の長男である信幸(後に信之に改名しますが、本稿では信幸を使用します)が、※1正室として迎えたのが小松姫です。徳川家康と真田家は、上田城において戦火を交えているのですが、真田家が劣勢をはねのけて徳川方に勝利し、豊臣秀吉の仲介で徳川家康と和睦しました。敵ながら戦いぶりに感じ入った徳川家康が、家臣である本田忠勝の娘を養女にして、徳川家から真田家へと嫁ぐ形としたのです。それが小松姫であり、容姿端麗な姫君であったと伝えられています。

小松姫を正室として迎えた信幸は、関ヶ原の戦いで徳川方につき、兄弟(真田信繁)で徳川方と石田三成方に分かち、どちらが勝っても真田家は存続できる状況で、徳川方が勝利しました。勝利に貢献した信幸は、九万五千石に加増されます。後に信幸は信州松代藩主として※2移封され、代を重ねて明治維新を迎えます。

良妻賢母として信幸を支えた小松姫でしたが、晩年に病にかかり、江戸から草津温泉へ湯治に向かう途中、鴻巣で亡くなりました。長野市松代町の大英寺には小松姫の霊廟があります。お墓は真田氏の所領である群馬県沼田市の正覚寺、長野県上田市の芳泉寺、そして鴻巣市の勝願寺、計3ヶ所に存在します。勝願寺のものは、生涯を終えた鴻巣の地に1周忌を期に分骨され、本堂の西側に建てられています。



### 歴史人⑨

## 真田信重

来年のNHK大河ドラマは「真田丸」です。真田丸は、江戸時代初期の「大阪冬の陣」において、真田信幸とは異なり、豊臣方についた真田信繁により構築された大阪城の※3曲輪(※4出城)の名称です。真田信繁よりも真田幸村という別称の方が知られているかもしれません。

真田氏には「のぶしげ」がもう一人存在します。真田信幸・小松姫夫妻の三男である真田信重です。父の信幸が上田から松代へ移封されたときに、父とともに松代に移りました。その際に、信重の兄の信政は松代藩の※5支藩として設けられた埴科藩一万石の藩主となり、信重は七千石の旗本となりました。後に兄の信政は上田沼田に移封され、信重は兄から埴科藩を受け継ぎ、晴れて一万七千石の大名となりました。

これもご縁なのでしょうか、1648年、真田信重は母親の小松姫と同じく鴻巣で亡くなりました。勝願寺の小松姫のお墓の隣に、信重夫妻のお墓が並んでいます。



●史跡⑧・⑨ (左から順に)真田信重の妻、真田信重、小松姫の墓

勝願寺内(所在地=本町8丁目、交通=鴻巣駅東口から徒歩約10分)

- ※1 正室=高貴な人物の正式な妻のこと
- ※2 移封=大名などを他の領地へ移すこと
- ※3 曲輪=城や砦の周囲にめぐらして築いた土石の囲い。「郭」とも書く
- ※4 出城=戦術的必要に応じ、中心となる城から離して設けた城
- ※5 支藩=本家から分かれた者が藩主である藩

文責：鴻巣御殿御参行列実行委員会(事務局=観光戦略課内☎501-6860)

◆平成27年10月15日発行 ◆発行 鴻巣市役所  
◆http://www.city.kounosu.saitama.jp/

◆吹上支所 ☎048-548-1211 FAX 048-549-1082  
◆川里支所 ☎048-569-1111 FAX 048-569-1184

